

灼けつく大砂漠を越えて今ロレンスが進撃する！

最優秀作品賞・最優秀監督賞など  
アカデミー賞7部門独占受賞

シネラマ

テクニカラー★超ステレオ音響★スーパー・シネラマ方式上映

# アラビアのロレンス

アレック・ギネス★アンソニー・クイン★ジャック・ホーキンス★ホセ・ファーラー  
アンソニー・ケイル★クロード・レインズ★アーサー・ケネディ  
ピーター・オートゥール(ロレンス)★オマー・シャルフ(アリ)

名匠デビット・リーン監督■鬼才サム・スピーゲル製作  
コロムビア映画

★近日・世紀の大公開★

大阪  
梅田

OS劇場 (361)  
3551~3

砂漠の美しさと恐しさ、戦いの醜さと激しさの中に  
青年ロレンスの孤独と勇気を描く永遠の名編！



私はロレンスを現代に生きた最も偉大な人物と信じる。私は二度と彼のような男を見ることはできないだろう。  
彼の名は歴史のなかに生きている。戦史のなかに、そしてアラビアの伝説のなかに生きている。

——サー・ウィンストン・チャーチル



LAWRENCE OF ARABIA



# アラビアのロレンス

LAWRENCE OF ARABIA

コロムビア映画

## アラビアのロレンス という映画

1914年、第1次世界大戦勃発と同時に、戦火はまたたく間に全欧州をなめつくし、トルコの動静が大きくクローズアップされた。しかし、アラビアに勢力を拡大していたトルコ帝国はドイツ側につき、英国の敵となった。そのため英国は、トルコの残虐行為に長い間苦しんで来たアラブ民族に働きかけ、自由と新しい秩序による彼ら自身の国を創る方策を与え、けっ起させてトルコに当らせ、ひいてはドイツを牽制しようとした。

謀略、反乱、闘争に明け暮れるアラビアの天地に登場したのが「アラビアのロレンス」と呼ばれ、「無冠の帝王」と怖れられたT・E・ロレンスだった。優れた指導者としての、類稀れな戦術家としての、卓越した謀略家としての素質と天賦の才能を秘めていた彼の一举一動は中東、英、米、仏、独の政府当局に脅威と動揺を与えた。

ロレンスが師ホガース博士のすすめで書いたアラビア体験記「七つの知恵の柱」を始め、「砂漠の反乱」ならびに彼に関する多くの著書は広く読まれ、その幾つかは日本でも出版されているが、スクリーンには今日までロレンスは登場しなかった。特に「七つの知恵の柱」の映画化は幾度びか企画されたにもかかわらず今まで果たされなかった。しかしプロデューサーのサム・スピーゲルは遂に権利を獲得、デビッド・リーン監督を迎えて、「戦場にかける橋」以来のコンビを再現、ここに原作にふさわしい超大作「アラビアのロレンス」を完成した。

ロレンスのアラビアでの活動は次の二期に分けられる。前半は、彼が英国の将校としてフセインの第二子フェイサルの軍事顧問となり、独自のゲリラ戦法でベドウィン・アラブを指揮して戦闘を行う時期で、要衝アカバを攻略するまで。後半は、ロレンス＝フェイサル軍がカイロの英軍総司令官アレンビー将軍の指揮下にあり、全軍の右翼、ヘジャズ鉄道の東面を受け持ちダマスカスへ入城するまで。映画はこの二期を通して描く。

ロレンスには、容貌、体格の酷似しているピーター・オトゥールが選ばれた。

彼をささえてアレック・ギネス、アンソニー・クイン、ジャック・ホーキンス、クロード・レイズ、ホセ・ファーラー、アーサー・ケネディ、アンソニー・ケイル、エジプトの国際的スター、オマー・シャリフ、英国のサー・ドナルド・ウォルフィット、シェイクスピア劇の名優ジョン・ラドック、そして中近東のスター達、ジア・モヘディン（パキスタン）、I・S・ジョハール（インド）、ガミール・ラティブ（エジプト）等完璧の布陣である。

脚本は現代英国の代表的な劇作家ロバート・ボルトで、映画のために初めて筆をとり、音楽作曲はヨーロッパ音楽界をリードし、「史上最大の作戦」を始めとする映画音楽を書いたフランスのモーリス・ジャール、演奏はロンドン交響楽団。撮影監督は「ソロモンとシバの女王」等の名手フレッド・A・ヤングで、素晴らしいカメラ・ワークを見せるなど、そしてこのほか世界第一級のスタッフが協力している。

■サントラ盤ベル・レコード ■角川文庫・早川書房刊

## ★アラビアのロレンス という人物

★T・E・ロレンスの名は多くの人を引合いに出すまでもなく、英国近代史を飾り、またその著作によって、「チャタレー夫人の恋人」等で知られるD・H・ロレンスと共に英文学史上に輝いています。

★彼は幾多の矛盾に満ちた性格の持主で、学生の頃より考古学者を志して研究活動を続け、卒業後もこの方面で優れた研究をなしましたが、第一次大戦勃発に伴い、巨大な力に呑み込まれ、砂漠の英雄として生まれ変わりました。任務を終え、アラビアに去ったロレンスは、その後、植民省中東局の政治顧問となったりしましたが、生来の冒険心と奔放な血は抑え難く、J・H・ロスの偽名で空軍に入隊したりしましたが、スピードにつかれ、1935年5月13日オートバイ事故を起し、同月19日47才の生涯を閉じたのです。

★以前からアラビア人に深い同情を寄せていたロレンスは、アラブ民族の統合と独立の夢を抱き、反乱軍の陣頭に立ちました。しかし、英国の目的はドイツ、トルコの連合粉碎にあり、しかも、反乱軍の指導者にとっては、英国が将来トルコに取って代るのではないかという懸念から、英国軍部とロレンスを巧みに操ろうとしました。ここにロレンスの悲劇があったのです。

★しかし、謀略、反乱、闘争に明け暮れるアラビアの天地に、ロレンスは超人的な活躍を見せ、アラビア人には神の如き存在でした。戦傷9回、骨接箇所33ヶ所を数えながらも、戦場では不死身でした。彼は驚くべき気力と優れた指導者としての、あるいは類稀れな戦略家としての才能を秘めていました。

★ロレンスの砂漠での活躍が終った時、彼の理想はついで去りました。同国人からも外国人扱いされ、アラビア人からも真意を誤解されたロレンスは、淋しく英国へ去り再び戻って来ませんでした。しかし彼の死後、今日でもアラビア人の中には、アラブ民族の危機に際しては再び姿を現わし、自分達を救ってくれると信じている者が数多くいるとのこと。そして彼の砂漠での活動は、その後、日本の中国大陸における謀略手段の手本となり、世界の謀略情報活動に大きな影響を与えたといわれています。



P・オトゥール



A・ギネス



A・クイン



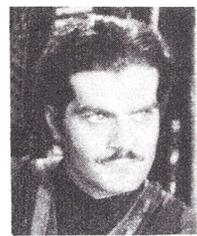
J・ホーキンス



J・ファーラー



A・ケイル



O・シャリフ

## ものがたり

第一次世界大戦の2年目、1916年、カイロの英陸軍司令部に勤務するロレンスは司令官から3か月の休暇を得て、アラビア、ベドウィン族の首長フェイサル王子の陣営に向かって旅立った。ロレンスはトルコの圧政に苦しむアラビア人に深く同情し、トルコに対し反乱を起こしていたベドウィン族を支援しようと考えていた。

旅の途中、ハリト族の族長、大守アリに出会った。アリはフェイサルと心を同じくし、民族の自由と独立のために戦っている砂漠の闘士だった。陣営の近くまで来ると突如、2機のトルコ戦闘機が陣営に襲いかかった。フェイサルは剣をふりまわし全軍を叱咤するばかりで、反乱軍は大混乱に陥った。ロレンスは近代武力の前に無力な反乱軍をまざまざと見せつけられたのだった。

その夜、幕舎でフェイサルの参謀格である英軍の連絡将校のブライトン中佐が、反乱軍は一時、徹退し、英軍の指導により近代化されるべきだと進言した。アリはこの意見に反対した。だがロレンスは近代戦法よりも、ゲリラ戦法がベドウィンには適していると進言した。

ロレンスには考えがあった。難攻不落といわれるアカバを攻撃すべきだ。数門の巨砲をはじめ防禦の主力は海に向けられている。無防備に近い背後をつけばよいのだとアリに打ち明けた。だがアカバの背後には越すことが不可能とされているネフド砂漠がひろがっている。さらに越えても、トルコと協調し、金のためにはなんでもするハウエイタット族がひかえている。

しかし、ロレンスとアリの部隊は進撃を開始した。乏しい水と灼熱の太陽に苦しめられ、1500の隊列はネフドを進んだ。ハウエイタットの領地に着いたときは人もラクダも疲労困ぱいの極に達していた。

その夜、ハウエイタットの族長アウダの幕舎でロレンスとアリは民族の団結を説いた。アウダはそれを一笑に

付したがアカバに黄金があると聞き、一緒に向かうことになった。

ロレンスを陣頭に数千のラクダ隊がアカバへなだれ込んだ。背後から不意をつかれトルコ軍はなすすべなく敗走した。町は黄金を求めるアウダの手で焼かれた。だが黄金は見つからなかった。

ロレンスは10日以内に5000ギニー持ってくると約束し、占領報告をかねてカイロに戻った。カイロのアレンビー将軍はベドウィンの軍隊を英軍に協力させようと考えていた。そして金でも銃でも大砲以外はすべて与えると約束した。

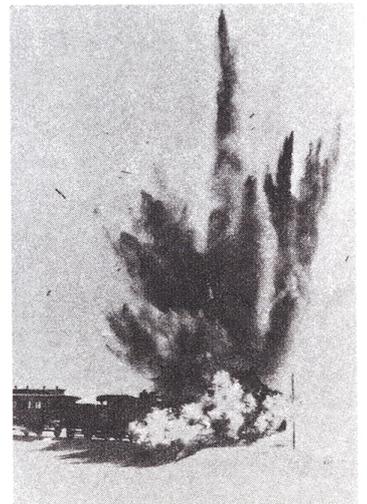
少佐に昇進したロレンスは、鉄道爆破など、さまざまな戦略を用いトルコ軍を打ち破り続けた。ベドウィンはロレンスを戦いの神のように崇拝したが彼らはアラブ統一より略奪に専念し、略奪を終えると次第に去っていった。

その頃、司令部ではロレンスの意に反してアラブとトルコの土地を英仏両国間で分割するというサイクス=ピコ条約が締結されていた。ロレンスは激しい怒りにうちふるえたが、ダマスカス攻撃をかける英軍より先に反乱軍が到着したら、占領地はすべてアラビア人に与えようという将軍の案に妥協せざるを得なかった。

数千のベドウィンは歓呼して英雄を迎え、ダマスカスへの急進撃が開始された。戦いは激烈をきわめたが、ついに英軍より先に占領することができた。

狂喜する民衆に迎えられた青年ロレンスは、この町に新しい政治を始めようとした。しかしアラブ人は自族の利益ばかりを主張し、ロレンスの努力は空まわりするだけだった。そして彼らは略奪品を持ちダマスカスを去っていった。

ロレンスは今やすべてを失ってしまった。彼の前には荒蕪たる砂が果てしなく続くばかりだった。





最優秀作品賞、最優秀監督賞などアカデミー賞7部門を独占受賞—  
 美しさと恐しさの交錯する大熱砂の中を、青年ロレンスは孤独の進撃を開始した。  
 永遠の名編、いま巨大なスクリーンに甦る。

1962年アカデミー賞7部門受賞—最優秀作品賞、監督賞、撮影賞、美術賞、劇音楽賞、編集賞、録音賞

# LAWRENCE OF ARABIA

テクニカラー ■ パナビジョン ■ コロムビア映画

# アラビアのロレンス



アレック・ギネス★アンソニー・クイン★ジャック・ホーキンス★ホセ・ファーラー  
 アンソニー・ケイル★クロード・レインス★アーサー・ケネディ  
 ピーター・オートール(ロレンス)★オマー・シャリフ(アリ)  
 名匠デビッド・リーン監督 ■ 鬼才サム・スピーゲル製作



# LAWRENCE OF ARABIA

テクニカラー★パナビジョン■原作邦訳/東洋文庫刊

## アラビアのロレンス



★映画史上に輝くあの名作が帰ってきた。

「風とともに去りぬ」「ベン・ハー」「ウェスト・サイド物語」など、10年に一度出るか出ないかといわれる名作はいくつかある。しかし、そのスケールにおいて、「アラビアのロレンス」を超える巨大な名作は生まれもない。

内容も質も、そのスペクタクルにおいても、映画史上にさんぜんと輝く金字塔という言葉にふさわしい、これは壮大なドラマである。

一九六三年二月一日、東京の有楽座で初日を迎えてのち、一年余のロングラン・ロードショーを続けた事実は、今では信じられない長期興行の記録であり、同時に、稀れに見る秀れた映画であることを実証した。

★膨大なスケールと美しさでアカデミー賞七部門獲得！  
この映画は、現在でも考えられないほどの製作スケールでつくられた。たとえば、ロケハンに八ヶ月を費し、ほるか離れた地点から水道をひき、大砂漠の真ん中に撮影隊の町を建設して一年にわたりカメラをまわし、トータル一年六ヶ月を撮影にあてたのである。

しかし、何よりも息をのませるのは、果てしない砂漠のさまざまな姿と、限らない美しさと、恐ろしさを目のあたりに見せてくれることだ。これが砂漠なのか——ノ TENTをかすめるかすかな風音、アラビアの天地にとどろくロレンス軍団の雄たけび、砂にしみ込んでゆく無冠の帝王の哀しみさえきこえるような演出と技術の見事さ。最優秀作品賞を含む七部門でアカデミー賞を独占したのはまさに当然である。



★ふたりの大スターを創り上げた圧倒的な迫力

実在の人物、英国青年T・E・ロレンスが書いたアラビア体験記『知恵の七柱』は、スケールが大きく、映画化が困難だと考えられていたが、「戦場にかける橋」のプロデューサー、サム・スピゲルと監督デビッド・リーンはふたたびコンビを組み、これに挑戦して見事に映画化に成功した。

そして、それまで無名だったふたりの男優を一躍世界的なスターにさせてしまった。タイトルロールのロレンスを演じたピーター・オトゥールと、砂漠の地平線のかなたから黒いかげろうのように登場するオマー・シャリフである。

一九八〇年、今また、ロマンにあふれる名作「アラビアのロレンス」はあなたの前に姿を現わす。TVのプラウン管では決して味わうことのできない迫力と満足感をもって巨大なスクリーンの上に甦えるのだ。

